

◀ 1月のこよみ ▶

- 1日 元旦
- 5日 官庁御用始め
- 7日 七草
- 11日 鏡開き・藏開き
- 15日 成人の日
- 16日 やぶいり
- 18日 家庭の日
- 21日 大寒

# 町だより

## 広報こすど

人口のうごき

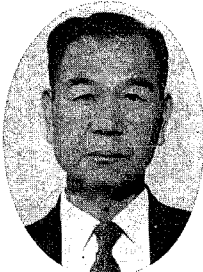
	(50・12・1現在)
男	5,095 (- 3)
女	5,492 (- 5)
計	10,587 (- 8)
世帯数	2,275 (+ 3)

発行所 小須戸町役場 ☎ 3111  
毎月1日発行 印刷所 玉庭印刷所

No. 34  
昭和51年 1/1

一、町の財政事情  
経済環境が悪化するのには当然、収事情が悪化するのには当然であります。政府の景気浮揚対策で、新年から景気の立ち直りがみられても、五十一年度の町財政は、町税の殆どが前年所得に頼っているから、よくならないのであります。

明けましておめでとうございませう。  
不況、インフレの昭和五十一年、苦しかった五十年々それだけに期待をかける五十年々であります。しかしはつきりとした見通しもなく、ただ新しく迎える年に夢をかけるようなものかも知れない。特に地方自治体においては、五十一年から財政事情が全く変わるものと考えており、それだけに容易ならぬ五十一年と覚悟も新たに頑張りたいと思っております。



# 新年にあたり

町長 五十嵐重雄



五十一年度一般会計の歳入（定資産、住民税）税率の引上を想定すれば、今日の経済情勢では新税の創設、現行（固）税目、税率とも据置きを考え

ております。  
次に町の一番大きな収入の国からの交付税も五十年度で一兆一千億円の減収であり、景気の動向から見て五十一年度は、増額の期待は無理の状況にあります。

以上の如く収入面でプラス要因が皆無なかで、支出面では、人件費、福祉費、物件費等の必要経費が前年支出を大きく上廻り、大変苦しい五十一年度予算となります。

新聞、テレビ等で「地方財政の危機」を伝えておりますが、経済基調が高度成長から安定成長に変わるものなら、地方財政制度、それ自体の変革を要するものと考えます。

地方自治体の予算は歳入の枠に歳出をはめ込むもので、不足財源の借入等の措置は認められず、従って増大する財政需要を乏しい財源で賄うには、先ず「旧来の予算の見直しをする」、「総花的の節約重点配分する」、「総体的の節約を計る」。この心構えで予算編成に当たります。

幸いのこと、本町では法人住民税への依存度も低く、常に財源不足の貧乏やりくりにも慣れて、それに対応できる体質も培われておりますので、赤字転落の心配もなくある程度の新規事業も見込んでおります。

な事業見込み

- (1) 道路下水を整備して、生活環境の改善をする。
- (2) 老人福祉センターの建設（二〇〇坪程度の快適な施設）。
- (3) 中学校屋内体育館の改築
- (4) 雁巻川原のグラウンドを運動公園として整備する。

三、町づくりのためのその実現に努力する事項

- (1) 高校誘致問題  
昨年同期同盟を結成して県に請願陳情を行い、七月十一日県議会において請願採択されましたが、その実現のため努力する。
- (2) 農村総合整備モデル事業の指定について。  
この事業は農村の道路下水等、生活環境を整備するもので、五ヶ年連続で予算は十億円程度、国県補助率七十％で五十一年度指定を受け、五十一年度事業開始に向って関係係にお願いたします。

以上年頭にあたり、新年年度の財政事情と抱負の一端を申し上げますと共に、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

二、五十一年度の主

